

はじめに

教育学部教育改善委員会委員長 池川 直

本学のFDに関する指針では、「部局等は、学部・学科等のカリキュラムが教育目標やアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーと整合しているかどうかを点検・評価し、必要に応じて、カリキュラムの開発・改善に努め、教育の質の向上を図る。」と定めています。さらに、教員の責務としては「自らが担当している授業の目標やシラバスの検討を随時行い、学生理解・支援、授業内容、授業方法、教育評価及びカリキュラム開発・改善に関する知識・技能を高めることに努める。」と規定されています。

本委員会では、この方針に沿い、大学が担っていく社会に貢献できるより良い人間と、社会生活や文化に貢献できる研究を育てていくために、学生と共に考え、高めあう活動を目指し、本年度は次の5つの活動を行いました。

1. 教員相互による授業公開を、前・後期に実施。
2. 学生による授業アンケートを、従来の後期から前期に実施。
3. 学生主催による教育学部・研究科合同FDシンポジウムをより充実させるため、夏に開かれる全国学生FDサミットに教員と学生FD委員(2名)を派遣。
4. ピアサポートの活動を促進し、学生支援の充実。
5. FD講演会として教育センター伊藤奈賀子准教授の講演会(初年次セミナーⅠ・Ⅱのエッセンスー初年次セミナーの意義)の実施。

まず、教員相互の授業公開については、教員自らの教授法の点検と改善への取り組みの一つであり、FDの根幹をなすものといえます。しかしながら、その実施率は依然課題を残す結果になりました。来年度についても引き続き改善策について検討しなければなりません。この点については、委員会委員だけでなく、多くの先生方から意見をいただければありがたいと考えているところです。

次に、昨夏札幌大学で行われた「学生FDサミット2016夏」では、「理想の大学」について、現状から理想とする大学像へ原因を突き止め、いかに改善点を見つけていけばよいのか。全国の大学生が持つ意見からあらためて2名の学生が共通の課題と意識してくれたことも今後につながることでしょう。

また、12月に開催した学部・研究科FD合同シンポジウムでは、学生FD委員が、学生意見をアンケート調査したものをもとに「履修に関して」、「学内施設に関して」、「アクティブラーニングプラザ(第2講義棟)の利用に関して」、「学内行事」の4つのテーマで、グループ討論を行い、改善できるところから改善していこうと本委員会から各委員会に要望する項目を整理してみました。

以上のように、学部教育改善委員会では、全国の大学で日々深化するFDへの取り組みを参考にしながらも、学部の教育内容や学生の実態に即し、共に学び、高めあう教育・研究活動への発展に少しでも寄与できればと考え活動してきました。本報告書が先生方の今後の教育研究と専門分野研究に少しでも参考になればと願っています。

はじめに

目次

第一部 鹿児島大学教育学部の教育改善に関する活動報告

1章 授業アンケート回答の分析

1	授業アンケートの回収状況	1
2	授業アンケート質問項目について	1
3	授業アンケート回答の分析	1

2章 平成28年度教育学部授業公開報告

1	授業公開の実施計画	3
2	授業公開の実施状況	4
3	授業参観報告書における記述	4
4	授業公開のまとめ	6

3章 教育学部・教育学研究科合同FDシンポジウム

1	FDシンポジウムの目的	7
2	FDシンポジウムのテーマ	7
3	スケジュール	7
4	基調報告	7
5	グループ別討論会	8
6	全体報告会	10

4章 学生FDサミット2016夏～北海道どさんこ大学～

1	学生FDサミットとは	12
2	活動内容	12
3	演習のテーマ	13
4	学生FDサミットに参加した学生（2名）の感想	14

第二部 鹿児島大学大学院教育学研究科の教育改善に関する活動報告

1章 平成28年度教育学研究科教育改善のための調査

1	はじめに	16
2	調査の実施方法	16
3	結果と考察	16

編集後記	25
------	----

第一部 鹿児島大学教育学部の教育改善に関する活動報告

1章 授業アンケート回答の分析

1 授業アンケートの回収状況

平成28年度前期に授業アンケートを実施した授業科目数は58科目（オムニバス科目含む）であり、昨年度の55科目より3科目増加した。非常勤講師，特任教員，長期研修，長期休暇中等の教員を除く全93名の教員のうち61名の教員が授業アンケートを実施しており，実施率は65.6%であった。今後とも引き続き，実施率の向上方策を検討していく必要がある。

2 授業アンケート質問項目について

授業アンケートの質問項目は，昨年度のものを引き続いて使用し，4件法（4：そう思う，3：だいたいそう思う，2：あまりそうは思わない，1：そうは思わない）で学生に回答してもらった。

3 授業アンケート回答の分析

全科目平均値は【表1】に示す通りである。

【表1】全科目の平均値（平成27年度と平成28年度）

	質問項目	28年度平均値	27年度平均値	平均値差
Q1	授業はシラバスの内容に沿ったものでしたか	3.76	3.54	0.22
Q2	授業の進度は適切でしたか	3.77	3.56	0.21
Q3	授業内容を理解するためには普段の予習や復習が必要不可欠でしたか	3.09	2.92	0.17
Q4	予習や復習をしましたか	2.76	2.54	0.22
Q5	授業中は質問や発言がしやすい雰囲気でしたか	3.43	3.07	0.36
Q6	授業中質問や発言をしましたか	3.03	2.63	0.4
Q7	授業内容は理解できましたか	3.51	3.38	0.13
Q8	授業はあなたの知的好奇心を刺激しましたか	3.59	3.42	0.17
Q9	教師の話し方は明瞭で聞き取りやすいものでしたか	3.72	3.58	0.14
Q10	教師の説明の仕方はわかりやすかったですか	3.7	3.59	0.11
Q11	資料(板書，プロジェクター，配布資料等)の内容は明瞭に見てとることができましたか	3.66	3.47	0.19
Q12	授業は時間通りに行われましたか	3.74	3.55	0.19
Q13	オフィスアワーを活用しましたか	2.04	1.87	0.17
Q14	授業に対する教師の熱意を感じましたか	3.74	3.61	0.13

すべての質問項目において，昨年度を上回る結果となった。特に昨年度を大きく上回ったのは，「授業中は質問や発言がしやすい雰囲気でしたか」に対する回答である。アクティブラーニング，主体的な学びの必要性が求められている近年の教育にかかわる状況を受けて，教員が授業のありかたに工夫を凝らしていることがうかがえる。

また，平均値の上位3項目と下位3項目は以下のとおりである。

上位3項目	下位3項目
Q2 授業の進度は適切でしたか	Q13 オフィスアワーを活用
Q1 授業はシラバスの内容に沿ったものでしたか	しましたか
Q12 授業は時間通りに行われましたか	Q4 予習や復習をしましたか
	Q6 授業中質問や発言をしましたか

下位項目を前後の質問項目と関連付けて分析したところ，「授業内容を理解するためには普段の予習や復習が必要不可欠である」（平均値3.09）にもかかわらず，実際には「予習や復習をしていない」状況，「授業中は質問や発言がしやすい雰囲気であった」（平均値3.43）が，「授業中に質問や発

言をしていない」様子が明らかとなった。必要性もあり、雰囲気を整っていたとしてもしない・できない現状をどのように変えていくのが今後の課題であろう。そのためには、「なぜ、予習や復習をしなかったのか」、「なぜ質問や発言ができなかったのか」、その原因を探る必要がある。

オフィスアワーの活用については、オフィスアワー以外に教員と個別に連絡を取り合って、授業に関する質問や相談をする学生の存在もあるため、総合的に分析しなければならない。しかしながら、オフィスアワーが十分に周知されていない可能性も否定できないため、引き続きシラバスおよび授業のなかで提示していくよう呼び掛けていく必要がある。

2章 平成28年度教育学部授業公開報告

1 授業公開の実施計画

平成28年度の教育学部授業公開は、以下のような手順で実施した。

(1) 授業公開の目的と枠組み

授業公開は、まず、最高学府としての学問等の最先端情報や動向などに基づき、教員自らの研究向上を背景に、ひろく一般の方々にも授業を参観することにより、地域・社会貢献にするという大きな役割がある。そのため、急速に高等教育機関での教育改革が求められ、教員同士が相互に授業を公開・参観することにより、各教員が授業内容(テーマ)・授業方法など授業全般にわたっての改善と、その資質向上を目指す目的がある。

鹿児島大学教育学部は、この主旨から本年度は前期・後期とも授業公開を行った。専任教員全員が担当授業科目一つを公開し、全教員が一つ以上の授業を参観する方法を前年度に引き続き基本的な枠組みとした。

(2) 授業公開科目調査

1) 平成28年5月18日(水)から5月27日(金)まで、授業公開の科目調査を全教員当てに一斉メールをし、行った。調査方法として、各専修・コースの世話人を通して専修・コースごとに各教員の授業公開科目をとりまとめ、教育改善委員会で集約した。

調査内容は、①授業公開科目(教育学部専任教員ひとり一科目指定)(曜日・時限・科目名・講義室)、②授業公開実施予定日(平成28年6月6日(月)～7月8日(金))中の授業実施予定日のうち、1日以上を指定、複数回の指定も可)、③授業参観受け入れ可能人数、④授業参観者の事前連絡の必要性有無の4項目とした。

2) 平成28年11月16日(水)から11月25日(金)まで、授業公開の科目調査を全教員当てに一斉メールをし、行った。調査方法として、各専修・コースの世話人を通して専修・コースごとに各教員の授業公開科目をとりまとめ、教育改善委員会で集約した。

調査内容は、①授業公開科目(教育学部専任教員ひとり一科目指定)(曜日・時限・科目名・講義室)、②授業公開実施予定日(平成28年12月5日(月)～平成29年1月20日(金))中の授業実施予定日のうち、1日以上を指定、複数回の指定も可)、③授業参観受け入れ可能人数、④授業参観者の事前連絡の必要性有無の4項目とした。

また、本年度後期の授業公開科目としてアクティブラーニングが行われている授業かどうかも自己申告してもらった。

3) 授業公開科目一覧と授業参観報告書書式の提示

授業公開科目調査を集約し、今日学部全教員に授業公開科目一覧表(専修・コース別、実施日別)と授業参観報告書の書式を配布すると共に、授業公開の実施要項を提示した。

授業参観をした教員は、授業参観報告書を提出することを原則とした。授業公開科目一覧表は、教育学部だけではなく、全学のFD委員会を通じて鹿児島大学の全学部公開し、授業参観を受け入れる体制をした。

4) 授業公開及び授業参観の実施

① 平成28年6月6日(月)～7月8日(金)

② 平成28年12月5日(月)～平成29年1月20日(金)

5) 授業参観報告書

授業を参観した教員は、参観報告書(別紙)を①6月6日(月)～7月22日(金)と②12月5日(月)～2月3日(金)までにそれぞれ提出し、これを教育改善委員会が集約した。

6) 授業公開のまとめ

提出された授業参観報告書をもとに、授業参観者数等を集計し、平成28年度教育学部授業公開のまとめを行った。

2 授業公開の実施状況

授業参観報告書を集計した結果、平成28年度の教育学部授業公開の実施状況は、以下の通りである。

(1) 授業公開科目数

- 1) 前期授業科目数は、全専任教員98名が公開した。今回は、複数科目の授業公開はなかった。
- 2) 後期授業科目数は、諸事情のためか、88名が公開した。

(2) 授業参観者数および参観された授業科目数

1) 前期授業参観で報告提出された授業参観報告書は、14件のみであり、極めて少なく14%しかなかった。詳細に見てみると、同じ専修・コース内の教員相互の授業参観は5件で、9件は他の専修・コースとの相互関係であった。14件という少ない中ではあるが、教員の意識の中では、自己の専修・コース内ではなく、他専修・コースでの教育方法や情報を周知したいという意識があると考えられる。

2) 後期授業参観で報告提出された授業参観報告書は、前期よりさらに少なく、8件しかなかった。前期の授業参観の専修・コース内は2件、他専修・コースでは6件であった。

以上の結果から、なぜ、授業参観・授業科目が少ないのかの分析と今後、報告書提出に至らずとも、授業参観数および参観された授業科目数の増加のために手だてを考慮する必要があると考えられる。

3 授業参観報告書における記述

報告書の内容についてしてみると、他専修・コースの教員が参観しても「分かりやすい内容だった」という記載が散見できた。よく巷で言われるように研究についても小学生に分かりやすく、小学生が理解できればその説明は成功しているといわれる。学問もかくあるべきで、同じ専修・コース内であれば、「わかったような気分」になることがマンネリの一步と言われている。こうした意味ではマンネリを防ぎ、絶えず研修・精錬することは大学の教員の場合、「反省的教員」に成らざるを得ないだろう。

そこで、「本授業に対する感想・意見」から、授業改善の参考となる意見を(1)学習内容の面、(2)方法、(3)全体として、による視点から、少し取り上げることとする。

(1) 学習内容並びに授業課題の活用

- ・予習方法を提示し、とりあげるトピックが身近で自分の経験を基に考えことができる。
- ・教育法規に関する全体構造の説明があった。
- ・授業者のこれまでの経験や学校現場との関連が明確であった。
- ・学習内容を巡る最新動向に関する説明がなされていた。
- ・学生にとって身近な問題例として社会・労働問題を捉えていた。

- ・適切な資料，準備された材料と道具，TAによる支援が成されていた。
- ・学生らが陥りやすい「つまずき」を観察し，抽出し，「なぜそうするのか」と言う原理を説明していた。
- ・学生にとって身近な民放のドラマを教材としてとりあげ，労働と生活の課題に考えさせていた。
- ・配布資料(参考文献)が学生にとって考えさせる教材であった。

(2) 方法について

- ・5人グループの議論による授業であった。学生同士の学び合い，が学生の主体性を引き出し，受講生全員の学びを深め，学んだ知識や考え方の定着になると考えられる。
- ・受講生との対話を通じて，授業の展開が成されていた。受講生の関心を喚起する。
- ・パワーポイントによる説明と配布資料があった。
- ・予習ノートの作成をさせる。
- ・評価の可視化・LTD用自己評価の一と
- ・Moodleを日常的に活用し，グループごとに活用させている。
- ・グループで討論させている。
- ・授業の個人レッスンで，学生の能力に合わせて丁寧な指導であった。学生の目標を立てさせ，努力させていた。
- ・机間巡視が多く，教員の一方的な発言ではなく，受講生との対話の中で考える授業であった。
- ・授業の中で調べさせる時間があり，調べてまとめるということへの癖付けをされていた。
- ・グループで主体的な活動を行っている。
- ・マイクをまわし，学生の発言をさせている。・授業での参加度を高める工夫と考える。
- ・ノート作成を重視させている。
- ・新聞・児童文学・アニメなどの適切な引用が成されていた。
- ・プリント作成・配布を行っている。
- ・学生からの質問や感想記述をしていた。

(3) 全体として

- ・1つの講義の中に，講義を聞く，メモをとる，音楽を聴く，音を拾う，考える，発表するなど様々な要素がバランスよく盛り込まれており，充実した内容の講義でした。
- ・資料において図，表が多く，総力が弱い子の疾走フォーム，速い子の疾走フォームの違いがよく分かった。
- ・走運動のトレーニング例を実際にする事で，より理解が進み，参考になった。

以上のように，授業・講義内容における参考・改善点として参考になる場合は，学生の身近な問題・経験に裏付けられた内容と，教師側が丁寧に説明をしていることであった。方法としては，多様な意見が見られ，「グループ活動」が多く，教師側の一方的な授業ではなく，学生主体の授業へと変わりつつあると捉えられる。また，教材としても新聞・児童文学・アニメ・DVD等多様な教材が使用されており，学生自ら教材を作成する力を育てている授業も見られたことである。将来的には，教員は自らが教材を作成できる力が必要であることから，アクティブラーニングの役割もここにあると考えられる。

4 授業公開のまとめ

教育学部の授業公開は、平成 18 年度から開始され、今年度は 10 回目の授業公開であった。しかし、授業参観報告は最も低く、後期では 8 件となってしまった。その原因として本年度は教職大学院設置前年度であり、新たな初年次セミナー授業の開講の影響もあると考えられる。さらに年々多忙化している現実が教員の研修の一環である「授業参観」の時間さえ確保できないことを考慮すれば、再度授業公開について検討する余地はあるのではないだろうか。

3章 教育学部・大学院合同FDシンポジウム

1 FDシンポジウムの目的

教育活動の実態について、学生の視点から調査・報告を行い、改善策を提言することが主な目的である。また、今後の継続的な活動のために記録を蓄積し、活用できるようにすることも重要な目的である。

2 FDシンポジウムのテーマ

テーマの決定にあたっては、学生FD委員長・副委員長がシンポジウム1ヶ月前に実施して得られた学部生141名のアンケート結果を元に、学生・教員FD委員で議論し、下記4テーマに決定した。昨年と同様の①～③に加え、今年度は新たに④を加えた。①は教育内容をより良くするため、②はアクティブラーニングプラザ利用規定(昨年、学生主体で決定)の1年間運用後の検証などのため、③及び④は、学生生活をより良くするため、という観点から選ばれたものである。

テーマ① 履修に関して(時間割を含む)

テーマ② 第二講義棟(アクティブラーニングプラザ)について

テーマ③ 学内施設の利用について(利用時間等について)

テーマ④ 学内行事について

3 スケジュール

- | | | |
|-----------------|---|--|
| (1) 日 | 時 | 平成28年12月13日(火) |
| (2) 受 | 付 | 14:50～15:00(103教室前 学生2名) |
| (3) 基 調 報 告 | | 15:00～15:30(103号)
・趣旨説明(池川委員長)
・学生FDサミット報告(杉原委員, 参加学生)
・履修や時間割に関する説明(小柳教務委員長) |
| (4) グ ル ー プ 討 論 | | 15:35～16:25(各グループ教室) |
| (5) 全体報告・討論会 | | 16:30～17:30(103号) |

4 基調報告

後で実施されるグループ討論が円滑に進むよう、教員3名(池川委員長, 杉原委員, 小柳教務委員長)および学生1名(学生FDサミット参加者)による基調報告がなされた。まず池川委員長から、FDシンポジウム開催の趣旨説明がなされた。次に杉原委員から、9月に行われた学生FDサミットの参加報告があり、この場で行う討論のヒントとなるような、各大学学生FDの取り組みやサミットの議論の内容などが紹介された。また、杉原委員とともに学生FDサミットに参加した学生による報告では、最先端の学生FD活動に刺激を受ける一方、鹿大教育学部は少人数授業による双方向型授業の実施率が高いことや、授業における教員と学生の距離が近いと感じられることなど、恵まれた環境に気づけたとの報告があった。小柳教務委員長からは、主にテーマ①の履修に関することについて、意見箱の周知と活用促進を図ること、また要望・意見は具体的なものを挙げてほしい、との説明がなされた。そして、これらの基調報告を基に、グループ討論へと進んだ。

5 グループ別討論会

グループ討論のため、参加者をA～Eの5グループに分けた。1グループの構成は、3年生を主とする学部生5、6名、大学院生1、2名、教員1、2名を基本単位とした。各グループで討論するテーマは4テーマ中2つ（委員会指定1つ+他1つ選択）とした。討論の方法はKJ法。また、テーマ設定時の議論でも活用した学部生141名のアンケート調査結果も配布し、討論の基礎資料とした。シンポジウム150分中、グループ討論に設定した時間は50分であり、2つのテーマについて討論できたのはBグループのみ、他4グループは委員会指定の1テーマのみの討論となった。

下記は、学生FD委員が、それぞれのグループで話し合われた内容等についてまとめたものである。

(1) A, Eグループ《テーマ①履修に関して（時間割を含む）》

1) エントリーシート・履修登録

改善策・要望	現状・理由
取得予定の免許についての項目を設けてほしい。	必修科目の講義が優先的に取れない。
制限科目の欠員補充のエントリー期間を設けてほしい。	事務方から教員に補充メールを送り、欠員を埋められるか、連絡することで教員も授業がしやすいから。
教育学部のエントリーシートを提出する前に、共通教育の時間割を出してほしい。	履修登録しにくい。
各専修ごとのページの後ろに書いておく、又はメールなどで知らせる。	実習に必要な科目は教育課程の後ろのページに載っているため、確認しづらい。
ネットで24時間申請可能にする。	エントリーシートの受け付け時間が短すぎる。
教育学部の履修登録を、実習前又は土日にする。	履修登録と実習期間が重複する。
下の学年が履修登録をしやすいように、学年の縦のつながりで交流を設けて欲しい。	

2) シラバス

改善策・要望	現状・理由
集中講義の時間と日程をシラバスに乗せてほしい。	スケジュール管理をしたい。
非常勤講師の方のシラバスに、概要を詳しく書いてほしい。	シラバスに白紙がある。
紙媒体のシラバスを、学生係又は科室に1冊置いてほしい。	分かりにくい。記載されているものと異なるものもある。読みにくい（ダウンロードしないと読めない）。
必ず集まらないといけないオリエンテーションの連絡を早めに送ってほしい。	年間計画案があるとスケジュール管理しやすいから。

3) 講義の時間帯

改善策・要望	現状・理由
午前小専科目・午後は専門科目という決まりを作してほしい。	履修登録がしにくい。
必修授業が重複しないようにしてほしい。	

4) 教員免許

改善策・要望	現状・理由
人数制限科目の開設日を増やす。 入学時に、取得可能な免許をあらかじめ説明する。	教員免許を取りたいのに取れない。 人数制限科目で取れる免許が減る。免許について分かりにくい。

(2) Bグループ《テーマ②第二講義棟（アクティブラーニングプラザ）について》

改善策・要望	現状・理由
ゴミ箱を増やす。	ゴミがゴミ箱からあふれているので。
掃除についての注意喚起をする（張り紙）。 各教室にゴミ箱（消しカスを入れる）を準備する。	もっと綺麗に使いたい。
業者の方が掃除をどの程度してくださっているのか確認する。	掃除されている頻度を知りたい。
時間によって区切る。（共通の学習プラザのように）	勉強スペースと談話スペースを分けて欲しい。
換気についての注意書き（張り紙）	換気したい。
ルールを守ればいいと思う。ルールについての張り紙を用意する。	平日23時まで利用可能にしたい。
1・2年生も時間外に学生証で入れるようにしてほしい。	

(3) B, Cグループ《テーマ③学内施設の利用について（利用時間等について）》

改善策・要望	現状・理由
エレベーターを設置してほしい。	音美棟では、楽器の運びや一般の合唱団の高齢の方が、階段を上り下りするのが辛い。
ピアノの調律をしてほしい。	ピアノの調律が気になる。
文系棟とエデュカのトイレを明るくきれいにしてほしい。	文系棟とエデュカのトイレの状況が暗くて怖い。また、使いづらい。
街灯を増やしてほしい。	駐車場が暗くて怖い。
エデュカ2階のコピー機 USB 対応かつ硬貨も使えるようにしてほしい。	近くのコンビニにもなくなりコピーするのが不便になった。
教育学部内にATMを設置してほしい。	ATMが近くにあると便利。

(4) Dグループ《テーマ④学内行事について》

1) 情報に関して

改善策・要望	現状・理由
<ul style="list-style-type: none">・多くの学生が利用している SNS のアカウントを作成して情報を流してほしい。・チラシを作り、エデュカのレジに置くと情報が伝わる。・学生に、してほしい行事のアンケートをとると学生の関心が分かると考える。	<ul style="list-style-type: none">学生の認知が十分でない。どのような内容かわからない。いつ行われているのかわからない。目的がわからない。

2) 「学内行事としてやってほしいこと」

改善策・要望	現状・理由
<ul style="list-style-type: none">・学部の清掃活動をしたい。・教員採用試験に向けた行事を増やしてほしい。・就職活動の勉強会や面接練習をしたい。	

6 全体報告会

グループ討論のまとめ(上記5)が全体場で発表されたのを受けて全体で話された若干の内容を簡潔に記しておきたい。

(1) 時間割に関して

1) 「スケジュール管理が難しいので、集中講義の日程を早めに明確にしてほしい」との要望に対し、「外部講師と連携しており、教務や他の教員から日程を示すことは難しい」との説明がなされた。

2) 「必修授業が重複しないよう、午前は小専科目・午後は専門科目という決まりを作ってほしい。」との要望に対し、「以前は今より午前は小専、午後は専門という住み分けがはっきりしていた。学部改組やカリキュラムマップの作成とも関連して、必修科目の重複などについては整理されていくものと思われる。」という旨の説明がなされた。

(2) コピー機(USBおよび硬貨対応)の設置について

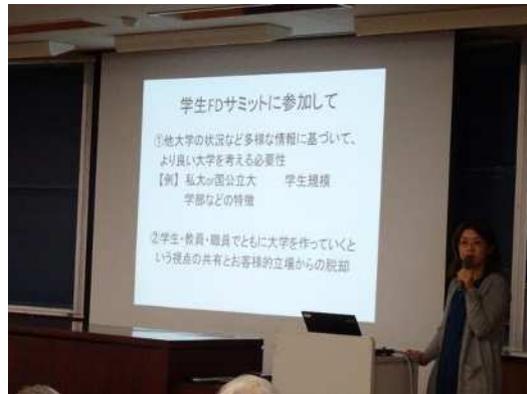
学生の「近くのコンビニにもなくなり、コピーが不便になった。エデュカ2階のコピー機を、USB対応かつ硬貨も使えるようにしてほしい。」との要望に対し、エデュカおよび大学生協に要望してみてもよいのではないかとの前向きな説明がなされた。

(3) 学内行事の情報について

学内行事について「学生の認知が十分でない。どのような内容か、いつ行われているのかわからない。」などの意見があることに対し、「掲示板や大学・学部HPでも情報を得ることができると思うが。」との疑問や、SNSなど、学生の情報確認ツールの現状を確認する質問が出された。

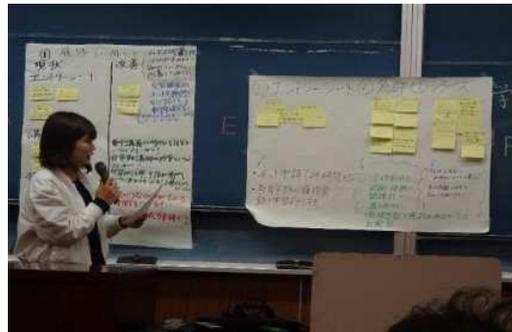
最後に、池川委員長より、FD活動を継続することの必要性和、今回の討論のまとめについて教職員・関係部署にも検討していただく機会を作りたい、とのお話があり、閉幕した。

資料写真<シンポジウムの様子>



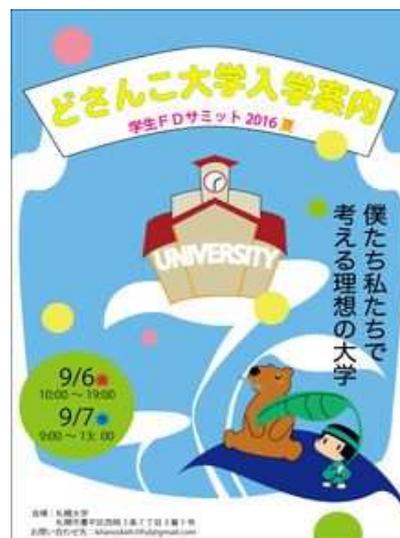
【杉原委員による基調報告】

【集団討論の様子・全体討論会での発表】



4章 学生FDサミット2016夏 ～北海道どさんこ大学～

日時：2016年9月6日(火)～7日(水)
会場：札幌大学(北海道札幌市)
参加：全国34大学 172名
テーマ：僕たち私たちが考える理想の大学



1 学生FDサミットとは

- (1) 学生FDとは、「授業や教育に関心を持つ学生がその改善のために、大学側（教職員）と連携しながら自ら主体的に取り組む活動」を意味する。
- (2) 学生FDサミットは、全国の学生FDに取り組んでいる人たちの交流の場として2009年にスタートし、今回で13回目の開催であった。

2 活動内容

【1日目 9月6日(火)】

- 10：00～11：30 入学式（開会宣言，学長あいさつ，趣旨説明）
- 12：00～13：20 昼食（アイスブレイク）
- 13：30～14：30 演習①
- 14：30～15：30 テーマ別交流会
- 15：30～17：20 演習②
- 17：30～19：00 懇親会

【2日目 9月7日(水)】

- 9：30～10：00 オープニング（1日目の振り返り，2日目のプログラム説明）
- 10：00～11：00 演習③
- 11：00～12：30 最終プレゼンテーション
- 12：30～13：00 卒業式

本学から参加した学生は、次頁に示したテーマのうちテーマ（1）「理想の大学」を中心に演習①～③に取り組んだ。

3 演習のテーマ

(1) 理想の大学

…自身の大学への進学目的や現在抱えている課題をもとに理想の大学について考える

【学生FD初心者向け】

(2) 理想のカリキュラム

…自身の大学のカリキュラムをもとに理想のカリキュラムを考える

【学生FD中級者向け】

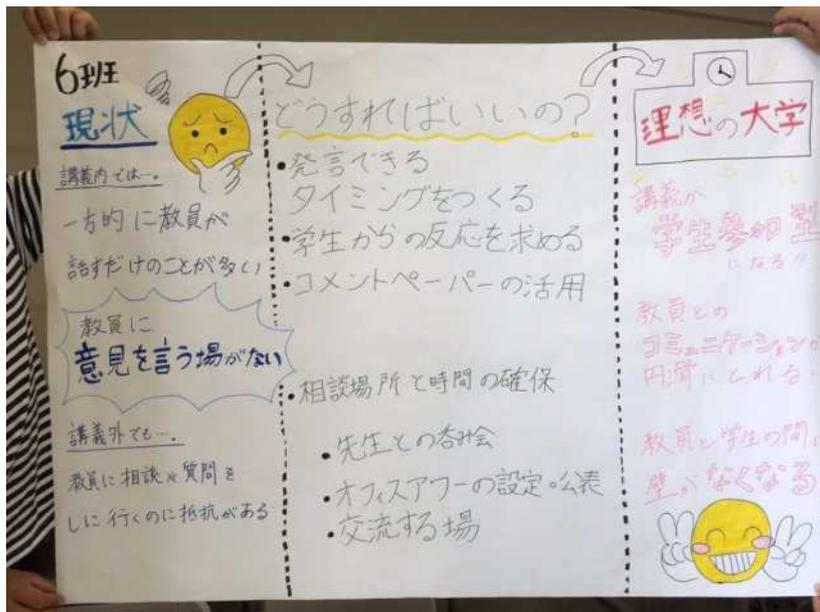
(3) 理想の地域連携・大学間連携

…自身の大学の連携のありかたをもとに理想の地域連携・大学連携について考える

【学生FD上級者向け】



演習時の様子



ンヨシ | テンゼレブ

用
| タスポ

4 学生FDサミットに参加した学生（2名）の感想

【Aさん】

① 学生FDサミットに参加して学んだこと、視野が広がったこと

まず、学生と生徒についての違いについて考えさせられた。私の考えでは、学生は自らが学びたいことを学び、生徒はある程度決められた基礎を学ぶものとする。今まで、この2つの言葉の違いについて考えることがなかった。答えは、なかったのだが違いを考えることで、自分が自発的に勉強をすることを再認識するきっかけともなった。

学生FDサミットには多くの大学が参加していた。その中でも、私立大学が多く国公立大学は鹿児島大学を含めて数校であった。私立大学の話を知ると、まず学生数が多いので専門の授業も大人数授業で行うため、質問なども行いづらいことや、担任の先生などが決まっても卒業まで会わないということもあるようだ。また、他学部との交流の希薄化や学校からの連絡が掲示板だけのため連絡を受け取ることが大変といった問題があげられていた。それらの問題に比べて、鹿児島大学の教育学部は少人数の授業がほとんどで、先生との学生との距離の近さを改めて感じた。また、ゼミでも一人の先生が担当する学生は数名である。他学科との授業もあるので、知り合いも増えたり、色々な情報の共有も行うことができる。学校からの連絡もメールで来るので、色々な情報を手に入れることができる。よって、他の大学よりも鹿児島大学教育学部の充実さを感じるサミットとなった。

② 今回学んだことを今後鹿児島大学でどのように生かすことができるのか

今回、学んだことのうち、今後鹿児島大学で生かすことができそうなことをあげる。一つ目は、マナーに対してのポスターを作りマナーの悪い学生に自律を促す。二つ目は、先生と学生との食事会や飲み会などのイベントを企画して、垣根を低くするきっかけを作る。三つ目は、施設の改善である。これは金銭面が大きくかかわってくるだろう。駐車場の拡大などを求めたいが、土地的にも大変だと思うので、私は喫煙所を設けることだけでも行ってほしいと思う。教育学部の人が喫煙するときは、校外に出て歩道などで吸うことになる。しかし、歩道は小学生なども登下校などで通る。あまり歩道で吸うべきではないと思うので教育学部内にも喫煙所を設けるべきなのではないかと考える。

③ 全体を通しての感想

鹿児島大学の充実さを感じた。私立はお金を持っているので、設備面も充実しているのだと思っていたが、そういうわけではなく色々な問題を抱えていることを知った。しかし、学生がFDとして学校を良くしようとするのが一番大事だと思う。学生FDを鹿児島大学にも取り入れるべきことなのではないだろうか。

【Bさん】

① 学生FDサミットに参加して学んだこと、視野が広がったこと

私が今回の学生FDサミットに参加して「理想の大学」というものについて深く考えることができた。私たちのグループでは「理想の大学」を実現していくために必要なこととして組織力と主体性が挙げられた。ここでいう組織力とは「学生」「教員」「職員」のことを指している。理想としてはこの三者がより密な関係をもち相互に協力していける体制の確立である。

しかし、現状はFD組織の認知度が低く一部の人間の薄いつながりのみの関係であり、「理想の大学」とはほど遠いものである。私自身も今回のサミットへの参加という経験がなければ学生FDについて知ることは無かったのではないかと思う。このような現状を打開するための改善策として、学生と教員と職員のかかわりの場を作ること、学生FDの活動効果を「見える化」して学内に周知してもらうことが挙げられた。学生FDについての認知度が低いと考えられる鹿児島大学においては学内全体に知ってもらうことが最初の課題だと思う。

主体性については、学内で行われているアンケートに着目して討論が行われた。学生が真に求めている授業の内容や次の改善につながるアンケートの内容ではなく、施設や環境、文字の大きさといったことへの質問が大部分を占めているというのが現状である。授業アンケートの恒常的な見直しが必要であるという結論に至った。

しかし、ここで教員側の立場からの意見があった。学生の主体性を尊重することは大事なことであるが、学生の意見ばかりを尊重しては問題が生じてくるというものである。確かに学生のわがままが通ってばかりで「理想の大学」に近づくとは思わない。やはり大切なのは学生と大学の密な関係性だと考えさせられた。

② 今回学んだことを今後鹿児島大学でどのように生かすことができるのか

私たちの鹿児島大学において必要なことは①でも述べたように学生FDについての認識を広めることである。今回の学生FDサミットに私のようなFD初心者が派遣されたということは鹿児島大学においてFDについて詳しく研究しているような個人や団体がいないということだと考えられる。サミットに参加していた各大学では、サークルなどを通じてFD活動をしているところが多くあった。鹿児島大学の学習環境は他の大学に比べると良いものであると感じたが、その環境の中でもよりよくしていくための努力も必要であると感じた。貴重な経験をした者としてFDの周知の役に立てたら良いと思う。

③ 全体を通しての感想

今回の学生FDサミットでは自分たちのFDに対する知識の低さと関心の無さを痛感させられた。初めは話を聞いているだけでいいものだと思っていたが、そもそも学生FDとは学生主体となり教育を改善していこうというものであり、サミット参加者のほとんどは貴重な機会をより良いものにしようと一生懸命であった。軽い気持ちで参加してしまった自分を情けなく感じた。案の定話し合いの場では意見を述べることができず、周りの雰囲気によって圧倒されているばかりであった。次回以降参加する学生には少しでもFDに関する知識を身につけることをおすすめする。

第二部 鹿児島大学教育学研究科の教育改善に関する活動報告

1章 平成28年度教育学研究科教育改善のための調査

1 はじめに

教育学研究科では、毎年、大学院生を対象に教育改善のための調査を実施している。本章はその結果報告と考察である。

大学院生からの回答には、毎年現れる要望事項がある。同じ要望事項が毎年現れるということは、十分な改善がなされていないと考えられる。こうした要望事項によって、本研究科が今後取り組んでいかねばならない内容が浮き彫りになる。

大学院の定員充足が喫緊の課題である今日にあつては、こうした調査を詳細に分析し、魅力ある大学院づくりを行っていききたい。

2 調査の実施方法

平成28年度の教育改善のための調査を以下の方法で実施した。

- (1) 調査実施時期：2016年7月20日
- (2) 本研究科1年次生34名であった。
- (3) 方法：2016年7月20日に実施した1年生全員が受講する必修授業の中で調査用紙を配布し、全員一斉に回答してもらい、その場で回収した。回答用紙は無記名であった。

3 結果と考察

以下に質問項目別に回答結果とその分析を示す。

- (1) 質問項目1：「研究科共通科目」、「コース共通科目」の授業についての意見

1) 回答結果

①満足している点とその理由

- ・話しあいが多いので、意見交換ができ、新たな知識が得られる。
- ・ディスカッション中心の授業が豊富で、ストレートから現職まで幅広く意見が聞ける。
- ・専門性が高い実践的な授業が受けられる。
- ・違う分野の講義を受けられるのがおもしろい。
- ・自分の専門外の先生の話を知ることができ、自分の考えに幅をもたせることができる。
- ・オムニバス形式は、先生ごとにテーマと方法が変わるので、大変さもあるが、刺激になり、見識も広がるのでよい。
- ・先生によって授業の内容が変わるので視野が広がった。
- ・評価規準が明確である。
- ・広い視野に立って現在の自分を見つめ直すことができている。
- ・現職の先生方の校種も様々で、他の専門の方と関わるができる。
- ・教育の分野での問題点、それらに対する対応方法を学ぶことができた。
- ・芸術スポーツ系学修コースでは、音美体と異なる分野を学んでいるが、共通点もあり、有意義な講義を受けることができた。
- ・同期が集まる機会が少ないので、貴重な時間だと思う。
- ・個々の授業がわかりやすい。他分野でも話し合いを通して理解を深めることができる。
- ・教職に必要な内容を広く浅く、狭く深くという感じで、教職を目指す人にとってはよい。

- ・新しい知見の紹介も多く、理論的であっても実際の教育現場に役立つと思うものが多い。
- ・グループ活動が多く、意見交流が盛んで有意義である。
- ・話し合い活動が多く、多角的な捉え方を共有できる。
- ・受講生との交流が十分に行われている。
- ・年齢も経歴も違う方々と意見交流を行うことで、新たな考えを吸収できる。
- ・グループ活動があったので他コースの人との交流ができてよかった。
- ・いろいろな先生方の話を聞けるので勉強になる。
- ・専門性が高く、グループワークも多いため、学習が深まり、他領域の院生との関わりをとおして刺激を受ける。
- ・専門的なことについて多面的な視点で話ができる。
- ・ディスカッション形式で様々な意見を聞くことができ、自分の考えが深化した。
- ・幅広い分野を押さえながら、一つのテーマに沿って授業していただいている。
- ・実践的な内容が多く、討論も楽しい。

②改善してほしい点とその理由

- ・時間通りに終わらないので、調整してほしい。
- ・グループ編成が固定的である。
- ・グループ分けが適当なので、配慮してほしい。
- ・課題の締め切り日と提出方法を明示してほしい。
- ・自分の専門でないものを学習しなければならない点は少しつらい。
- ・グループの人数を考えてほしい。
- ・答が見えないまま終了する回があると、気になって前に進めない。
- ・先生によってレポートの提出方法が異なる。レポートの提出方法を統一してほしい。
- ・グループ内の世話係などの役割分担決定は院生に一任してほしい。
- ・特別支援の授業数を増やしてほしい。
- ・話し合いだけして終わりということがある。そんなときは知識がほしい。
- ・先生が使う言葉が古すぎて聞いてことがないので、意味がわからない。
- ・必修は夜間しかないので通学が大変である。昼間も必修が履修できるとよい。
- ・曜日と時間帯の変更があると忘れてしまうので、基本の時間帯にそろえてほしい。
- ・レポートの提出日を考えてほしい。
- ・グループ活動の分け方を工夫してほしい。現職の先生が均等に分かれる方が現場の状況を聞くことができる。
- ・授業の内容はバラバラで関連性がないので理解しづらい。
- ・内容に生涯教育、社会教育の要素が少ない。学校教育に特化した内容ばかりだと偏りが生まれそう。
- ・オムニバスなので深まりがない。
- ・授業時間が延びる場合は予告してほしい。
- ・多くの人と話す機会を増やすため、グループの入れ替えをしてほしい。

2) 考察

話し合いという授業形態については肯定的な意見が多かった。しかし、話し合いについては班編成が固定化されている点については改善要望が出ていた。この改善要望は妥当な意見であり、

改善可能なものなので、今後、工夫していきたい。

また、複数の分野を学べるという利点を指摘した声も多かった。ただ一方でこの点を負担視する声もあった。複数の分野を学べることは教育学研究科の大きな利点である。同時に教師は、広く浅くでかまわないので、できるだけ多分野の知識をもっておくことが望ましい。

授業の分野については、特別支援、生涯教育、社会教育の要望があった。授業分野は、担当教員の専門分野にも左右される。同時に、授業分野はカリキュラム編成にも関わってくる。現時点で改善可能かどうかは不明であるが、授業分野に偏りがないように務めていきたい。

(2) 質問項目 2 : 「学修コース専門科目」の授業についての意見

1) 回答結果

①満足している点とその理由

- ・専門的で実用的である。
- ・「学びとは何か」を実践的に知ることができた。
- ・専門性があるため受講して楽しい。
- ・自分が学びたいことを深めることができる。
- ・これまでの教職経験と結びつけながら、自身の考えを強固なものにしたり、違う視点から捉え直したりと、日々勉強になっている。
- ・いろんな国の言語政策を勉強できる。自国の教育を見つめ直すのに必要な観点を習得できる。
- ・芸術スポーツは他の領域のことが学べて刺激になる。
- ・学生時代よりも実技や（学校ではない）現場調査が多く、充実している。
- ・普段は考えることのないテーマについて、ディスカッションしたり、先生の講義を聴いたりして勉強になる。
- ・（自分の専門とは）異なる範囲の知識が勉強できる。
- ・専門的な知識を勉強できる。
- ・深く勉強できる。自分のプレゼンテーションスキルをふり返り、反省できる。プレゼンテーションを行うことにより、自ら学ぶ機会が増える。
- ・自分が専攻する専門科目がそれなりの数用意されているおり、広く学ぶことができる。
- ・専門分野を学べるため、学修コース専門科目は面白い。自分の専門性を磨くことができる。
- ・自分の専門分野とのつながりが薄いと思うような授業でも、新たな視点や考えを示してくれる内容であった。
- ・少人数のため理解が深まりやすい。
- ・自分の専門性の高次化に専念することができる。
- ・多くの論文や学部時代には触れなかった内容について深く学ぶことができ、見地が広がった。
- ・時間割を動かしてくださったりして、便宜を図ってくださったのはありがたかった。
- ・自分が学習したかったことが学べるのでいいなと思う。
- ・少人数での講義が多く、意見が交わしやすい。
- ・教員が熱心である。
- ・少人数で行うので、質問対応が行いやすい。

- ・様々な分野の講義を開講していただいているので勉強になる。
- ・専門分野についてより深く学ぶことができ、満足しています。

②改善してほしい点とその理由

- ・どの科目も評価基準を最初に提示してほしい。
- ・隔年開講の授業を毎年開講してほしい。
- ・講義形式ばかりなので演習などを行いたい。
- ・5限目の場合、6限目の19時まで時間があるからと、学生に何も言わずに終了時刻を伸ばすのはやめてほしい。
- ・現職の場合、隔年開講の授業は必然的に受講できないものがある。

2) 考察

調査用紙への記載量は、満足している点の方が改善してほしい点よりも圧倒的に多かった。そのため院生の多くは専門科目に満足していると判断してよいだろう。改善してほしい点については上記の5人のみの記載であった。

今後、改善すべき点について調査から明らかになったことは、評価基準と隔年開講の授業である。

評価基準については授業内容や授業形式とも連動している。また、教員が院生に求める力にもよる。したがって、全授業を一律に同じ評価基準にすることは大学院になじまないと思われる。評価基準は各教員に一任するのが現段階では最も妥当であろう。

ただ授業開始時に評価基準を院生に周知することは必要であろう。今後は研究科運営委員会として、この点を各教員にお願いしたい。

隔年開講については、授業を担当する各教員に一任している。また各学科の事情もある。したがって、すぐに改善することは困難かもしれない。今後は、受講機会をできるだけ増やすような対策を考えていきたい。

(3) 質問項目3：研究・学習環境についての意見

1) 回答結果

①満足している点とその理由

- ・トイレが綺麗である。
- ・自分が学部生だった時より設備が良くなっている。
- ・人数に対して教室の大きさが適度である。
- ・トイレが綺麗になったので快適である。
- ・便利で利用しやすい。
- ・空調が常に可動している。
- ・自分の院生室があることはありがたい。
- ・アクティブラーニングプラザは綺麗で使いやすい。
- ・担当者の努力で綺麗な環境が保たれている。
- ・ネット環境があるので、調査しやすい。
- ・清掃が行き届いている。
- ・院生室があること。
- ・院生室とネット環境など学習に必要な環境が整えられている。

- ・ 院生室は大変便利です。
- ・ 独立した研究室があり，個人研究が進む。ロッカーもあるのでありがたい。
- ・ アクティブラーニングプラザのトイレが綺麗で使いやすい。
- ・ 院生には学習できる部屋が準備されているのでありがたい。
- ・ トイレが綺麗になったことはうれしい。

②改善してほしい点とその理由

- ・ 院生室に勉強道具を置けない，ロッカーがほしい。
- ・ ピアノの調律を望む。
- ・ エデュカに USB から印刷できるコピー機があるとありがたい。
- ・ エアコンの温度が高すぎる。
- ・ 夜間の外灯が暗く，運転中歩行者が見えにくい。21 時頃までは学内の通路を明るくしてほしい。
- ・ 院生室に電気スタンドがほしい。
- ・ アクティブラーニングプラザにもコピー機を設置してもらえるとありがたい。
- ・ 院生用のコピーカードがほしい。資料を印刷する時，毎回先生方に借りたり，事務室に行くのが大変だから。
- ・ エアコンが効かない場所（階）がある。
- ・ 講義棟の RGB 線を HDMI 端子に変えてほしい。
- ・ パソコンを使ってプレゼンをすることがあるので，HDMI ケーブルとパソコン端子用のケーブルの両方準備してほしい。
- ・ アクティブラーニングプラザのエアコンがぬるすぎて集中しにくい。
- ・ 体育棟が古く，災害時が心配である。
- ・ アクティブラーニングプラザのエアコンの温度。
- ・ 最近，鹿児島大学の WiFi がつながりにくい。
- ・ 学生が悪いと思うのですが，机の上に消しゴムのカスが残っていたり，机が乱れていたりして，教室が汚い。学生にもっと公共の場を使用しているという自覚をもってもらいたい。
- ・ 体育棟の老朽化が心配です。
- ・ コピー機や印刷機を利用できるようにしてほしい。費用がバカにならない。
- ・ 各教室に 1 台備品として PC があると発表の時に便利である。
- ・ 院生が自由に使える印刷機がほしい。
- ・ 学生証を忘れた時にも院生室（第 1 講義棟 3 階）に入れるようにしてほしい。例えばカードがなくても学籍番号で入れるとか。
- ・ コピーのしやすい環境があるとよい。個人出費がかさんだ。
- ・ 文系棟のトイレを改修してほしい。
- ・ エアコンの設定温度を 1 度下げてほしい。夏は暑くて集中できない。
- ・ 市水を全階に 1 か所でもいいから通してほしい。駐車場に許可されていない車が停まっていることがあるため取り締まってほしい。
- ・ アクティブラーニングプラザの教室が暑い。気分が悪くなる。
- ・ 授業で使用する資料の印刷費が実費なのが不満である。授業用は自由に印刷させてほしい。
- ・ 特定の棟に飲用水がないことで困っている。

- ・エアコンが寒すぎる時がある。

2) 考察

改善してほしい点については、予算措置が必要な要望が多く、改善可能性や改善時期について明確な回答を出すことは困難である。また改善要望が出ている点は、今年度新たに出された内容よりもこれまで毎年出されている要望が多い。頻度が多い要望事項については、今後、予算措置が可能になった際に優先的に対応したい。

(4) 質問項目 4：研究成果の発表について

1) 回答結果

①口頭発表

- ・すでにした……5名
- ・する予定である……26名
- ・予定はない……3名

ア) 満足している点とその理由

- ・満足できるクオリティの指導を受けられている。
- ・細かく指導していただいている。
- ・(すでにした) いろんな分野と年齢層なので、考えや結論がおもしろい。
- ・普段から丁寧に指導してくださっているので不満はない。
- ・各領域の先生方が熱心に指導してくれるので満足している。
- ・自分の専門について深く学ぶことができる。
- ・(すでにした) 多くの研究者とのつながりができた。
- ・(する予定) 定期的な学会でのポスター発表は研究の進み具合の目安になるのでよい。
- ・(する予定) 研究テーマと関係のある先生は優しく、いろいろ教えてくれる。
- ・研究に関しては先生も積極的に関わろうとしてくださるので嬉しいです。

イ) 改善してほしい点とその理由

- ・もっと指導を充実してもらいたい。
- ・(すでにした) 資金援助(多くの学会に足を運んだり、多くの学校現場に出向くためには費用がかかる)
- ・(すでにした) 発表のポイントなどについても触れてもらえると技術が身に付く。

②論文執筆

- ・すでにした……2名
- ・する予定である……26名
- ・予定はない……5名

ア) 満足している点とその理由

- ・研究について何をすべきかが明確になる。
- ・論文のレクチャーを受けることができ助かっている。
- ・実践場面に参加させていただき、修論で取り組む内容のイメージができた。
- ・書くために資料や書籍を調べることができる。
- ・入学段階から指導教員に相談したり助言をもらえるところ。
- ・ゼミの先生が論文提出の半年前から毎週指導してくれるので満足です。
- ・修論に向けてペースメーカーになってくれるところがありがたい。
- ・論文の書き方から指導していただき、また幅広い視野に立った研究内容のため勉強になるし、意欲が掻き立てられる。
- ・(すでにした) 初めてだったが、分析を深く行うことができた。

イ) 改善してほしい点とその理由

- ・できれば書き終わってから先生と相談する時間がほしいです。
- ・論文指導の授業を1年次から行ってほしい。

③作品・演奏・競技等

- ・した……0名
- ・する予定……4名
- ・予定なし……1名
- ・該当なし……28名

ア) 満足している点とその理由

- ・(する予定) 満足できる質の高い指導に助けられている。
- ・(する予定) 1年次から積極的に指導教員と話す機会がほしい。

イ) 改善してほしい点とその理由

- ・芸術系以外の人も見る機会がぜひほしい。

2) 考察

調査は1年次生を対象に7月に実施した。この段階で口頭発表および論文執筆を予定している院生が多数を占めた。このことは、自らの研究も着実に進めていることを示している。大学院に入学した以上は、学会発表や論文執筆はぜひ体験してほしい活動である。これらの活動によって、研究の進め方を体得することができる。またこれらの活動こそ研究の醍醐味なのである。

上記の結果を見るならば、本研究科所属の院生は、研究への意欲も高く、研究成果も期待できると言えよう。

平成28年度教育学研究科 教育改善のための質問紙

締め切り _____ 月 _____ 日

教育学研究科では教育改善のため、大学院生への調査を実施します。下記の項目に自由回答していただき、回収ボックス（教務係設置）へ提出してください。

なお、番号には該当箇所に○をつけてください。

F.1 ① 1年 ② 2年 F.2 ① 男 ② 女

1. 「研究科共通科目」, 「コース共通科目」の授業について意見を書いてください。

満足している点とその理由

改善してほしい点とその理由

2. 「学修コース専門科目」の授業について意見を書いてください。

満足している点とその理由

改善してほしい点とその理由

3. 研究・学習環境（設備・備品・消耗品等）について意見を書いてください。

満足している点とその理由

改善してほしい点とその理由

4. 研究成果の発表についてお尋ねします。

(1) 口頭発表

① すでにした ② する予定である ③ 予定はない

満足している点とその理由

改善してほしい点とその理由

(2) 論文執筆

① すでにした ② する予定である ③ 予定はない

満足している点とその理由

改善してほしい点とその理由

(3) 作品・演奏・競技等

① すでにした ② する予定である ③ 予定はない ④ 該当しない

満足している点とその理由

改善してほしい点とその理由

ご協力ありがとうございました。教育学部教育改善委員会

編集後記

2年間教育改善委員長をさせていただきました。年々この委員会の存在意義が高まることを肌で感じています。文部科学省の平成30年度からの次期学習指導要領の改訂にもあるように、「主体的・対話的で深い学び」がスローガンとしたアクティブラーニングによる学習が進められていくことになりました。大学教育にもそれが求められており、特に私たち教員養成学部は、その指導者を養成する学部としてその学部教育のあり方がさらに問われるようになってきます。これまでの授業公開、学部・研究科合同シンポジウムなどの研修制度を見直し、さらに充実を求められることとなります。このことを前向きにとらえ、これからの学生が社会へ出た時の本当の意味での「生きる力」となっていくことを期待して教育研究活動をしていきたいと考えています。2年間ありがとうございました。(池川)

昨年度から2年間、教育改善委員会委員として学部のFD活動に関わってきました。一個人として出来る事は多くなかったのですが、学部のFDシンポジウムで学生さんと直接話し合いの場を持てたのは自分にとって大きな収穫であり、良い機会だったと思います。このシンポジウムを通して、いくつか感じたことがあります。私は数年前にもこのFDシンポジウムに参加しましたが、その時に出された学生さんの要望と、今年度出された要望が、特に履修関係と施設整備の点においてほとんど同じであるということに気がつきました。これはつまり、要望がなかなか実際の改善に結びつけられにくいということを意味します。主な理由としては、二つ挙げられます。一つは、学生さんに出していただいた要望を、まとめて報告するまでの作業は出来ても、それが内容的に妥当かつ実現可能であれば実際に行動に移す、という大学側のシステムが未だ十分でないということです。これは予算との関わりもあり、単独の委員会ですぐ対応出来ることではありません。今後、大学全体の課題として捉えることが大切だと思います。また、特に履修関係の要望について、共通教育も含めたここ数年の頻繁なカリキュラム改革が解決をより困難にしている感は否めません。教育学部では複数免許取得の需要の高さから、学生さんの授業履修計画は千差万別でただでさえ複雑であることに加え、新旧カリキュラムが時に入り混じって実施されるなど、もつれた糸をほどこうとして余計にもつれさせているような状況があります。これも大学側の課題として、今後見直していく余地があるのではないのでしょうか。今後、学生さんも教員も、共により良い学内環境のもとで学問に携わっていけることを願っています。(丹羽)

夏に北海道で開催された「学生FDサミット2016夏」への引率と参加、授業アンケートの集計・分析を担当しました。「学生FDサミット2016年夏」では、大学をより良くしようと学生が主体的に考え、取り組んでいる姿を目にしました。学生側から「○○して欲しい」と声を上げることはもちろん大切ですが、ただ要望を言うだけではなく、「私たちになにかできないか」と考えることも重要であると気づかされました。

2020年を目途に大学入試も学習指導要領も大きく変化する見込みです。教育機関における学びのありかたを見直す時期であるがゆえに、今後の大学教育のありかたについても再検討をしなければならぬのでしょうか。より良い教育、より良い授業、より良い教育環境とは何か、考え続けていきたいと思っています。(杉原)

いわゆる「授業」をし始めて本年度で40年も経ってしまった。年月だけは長い。振り返ってみると是までに数回しか手ごたえがある「授業」ができなかった。それでも子どもと一緒に作った授業は、昨日のこのように覚えている。授業用プリント—今ではワークシートと言うが、これを最初にした時は管理職に呼び出され「おしかり」を受けた。学校に「車いす」を初めて持ちこんだ時も、「許可」が必要であった。ならば、教師が作成したのではない、子どもたちの作品ならば文句は言われまい、との意気込みで、すごろく・カルタなどをはじめ子どもが主体の授業開発・教材開発を心掛けてきた。これも「家庭科の男女共学・共修をめざす会」に学生として、早くから目覚めていたことが影響していたと思う。家庭科の男女共学・共修は実現し、はや20年以上にもなろうとしている。ワンピース(アニメでない)よりも、男女が学ぶことができる「はっぴ」を通しての伝統文化・生活文化・原理原則を授業で提示してきた。睡眠不足な生徒らには「枕作りと睡眠の役割」の授業なども開発してきた。それらも結局は、平等社会を作るためであると考えている。命や暮らし・働き方など現状を見つめ、憲法第24条・25条を武器に変革していくこと、それだけではなく環境を考慮しながら生きていくこと、これらを考えると多様な教材だらけと私は思う。今、大学で授業公開・授業改善の報告書を検討してみると、技巧的ではなく、まさにテーマの先駆的なアイデア・創造が求められていると考えられる。これらは果たして「教えられる」のだろうか。(齋藤(美))

委員2年目の今年度は、学部・大学院合同FDシンポジウムの開催を担当しました。本学部には、日常的にFD活動を行う学生組織は存在しないので、シンポジウム直前に学生FD委員を招集してばたばたと取り組みましたが、年に1度、教員・職員・学生が教育改善について話し合う機会には有意義なのではないかと感じました。(瀬筒)

本年度は教育学研究科の教育改善アンケート調査を担当いたしました。以前もこの仕事を担当した経験があります。今回のアンケートの回答は、当時と同じ内容と異なる内容がありました。異なる内容は施設面の充実でした。講義棟のトイレやアクティブラーニングプラザなど、施設面では大きく改善されたと思われます。同じ内容では、授業の隔年開講やコピーカードの費用などでした。すぐには改善できないかもしれませんが、改善努力を継続していきます。

平成29年度からは教職大学院が新設され、教育学研究科は新たな時代に入ります。教員と大学院生がともに充実した教育学研究科を作り上げていくことができればと思います。(假屋園)

昨年に引き続き教育改善委員として、今年度は報告書の編集を担当させていただきました。1年を通して、改善できたこと・できなかったこと、今後に向けて、改善可能なもの・厳しいものを眺めてみますと、反省とともに次の課題を得る機会があることに感謝の念が湧いてきました。

今年度の報告書は、例年より文量の多い読み応えのある編集後記に、先生方の思いの篤さが表れております。教育学系所属の教員としては最後の役目となりましたが、熱い先生方と一緒に仕事ができ、刺激的で有意義な2年間になりました。先生方の思いと学生さんの願いを重ねて、より良き学問の場が作られますよう心より祈念いたします。ありがとうございました。(石走)